

寒霞溪二十景

瀬戸内海国立公園の象徴、寒霞溪は表12景、裏8景からなる雄大な景勝地で日本三大渓谷美の1つに数えられています。

この渓谷は約1300万年前の火山活動で誕生し、悠長の時をかけて創造されました。春の山桜、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色と四季折々に変化する美しい景色を楽しむことができます。寒霞溪には表12景、裏8景そして小豆島最高峰である星ヶ城山へ続く登山道があります。歩く速度やコースにより違いはありますが、それぞれ片道約1時間から1時間半をかけて楽しむことができる登山道からは、長い歳月により創り出された奇岩怪石やショウドシマレンギョウやヤハタマイマイなど小豆島だけで見ることのできる希少な動植物、野生のニホンザル群など、雄大な自然を満喫しながら歩くことができます。

また、「空・海・渓谷」を一度に眺望できるロープウェイでの空中散歩もおおすすめです。

表神懸12景

①通天窓 (ツウテンソウ)

この岩には天に通ずる窓のように穴が開いています。

②紅雲亭 (コウウンテイ)

深い谷あいの清流の上にたたずむ東屋です。下の河原は素麺が流れているように見えることから「素麺流し」と呼ばれます。

③錦屏風 (キンビョウブ)

巨大な屏風を立てたような形をしています。秋には、赤や黄色の紅葉でまさに錦屏風になります。

④老杉洞 (ロウサンドウ)

杉の老木と洞窟からこの名前が付けられています。洞窟の内部は百量敷きといわれています。

⑤蟻蜂巖 (センジョガン)

ひきがるが、はいつくばってこちらを見ているようです。

⑥玉筍峰 (ギョクジュンポウ)

玉筍とは、竹の子のこと。まさに竹の子が天にそそり立つように見えます。

⑦画帖石 (ガチャウセキ)

この大きな安山岩は旅の思い出を写し描く画帖(スケッチブック)のようです。

⑧層雲壇 (ソウウンダン)

雲が段々と重なり合っているような岩々はまるで雲の祭壇のようです。

⑨荷葉岳 (カヨウガク)

ハスの葉の葉脈を裏側から見たようです。

⑩烏帽子岩 (エボシイワ)

今にも落ちてきそうな岩は、まるで神主のかぶる冠のようです。

⑪女蘿壁 (ジョラヘキ)

昔、女蘿というサルオガセが髭のように風になびいていました。「サルオガセ」とは針葉樹の枝に絡みつく地衣植物(コケ類)です。

⑫四望頂 (シボウチョウ)

標高約570mの頂からは目前に広がる海、山、空の美しい四方の眺望を楽しむことができます。

裏神懸8景

①鹿岩 (シカイワ)

まるで鹿が東の山並みを見ているようです。獅子やラクダにも見えます。

②松茸岩 (マツタケイワ)

名前の通り松茸の形をしています。

③石門 (セキモン)

自然が作った火山角礫岩の石の門です。大師洞の上流の谷はもみじの紅葉が素晴らしく、紅葉谷(もみじだに)と呼ばれています。

④大師洞 (タイシドウ)

小豆島八十八ヶ所霊場の第十八番札所で、石門洞ともいわれます。弘法大師が洞窟に籠られ、護摩修行をされたところから大師洞と呼ばれ人々の信仰を集めました。岩壁には丹後の田中作治作で寄せ石造りでは日本一といわれる二丈八尺の不動明王大石仏があります。

⑤幟岳 (ノボリダケ)

幟のような形をしています。別名「天柱岳」(天を支える柱)とも呼ばれます。

⑥大竜岩 (タイキガン)

巨大な竜が山をはい登っているようです。

⑦二見岩 (フタミイワ)

伊勢の二見ヶ浦にある夫婦岩に由来します。

⑧法螺貝岩 (ホラガイイワ)

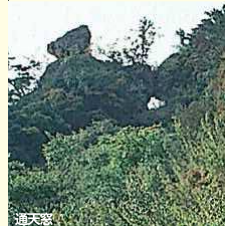
山伏が吹くほら貝の形をしています。岩の右下部と奥側には洞窟があります。

▲ 正岡子規句碑

「頭上の 岩をめぐるや 秋の雲」
この俳句は正岡子規が明治24年(1891)に寒霞溪を訪れた時に詠まれたものです。句碑の文字は、その時の色紙の書体を拡大して刻んだものです。

◎ 松尾芭蕉句碑

「初しぐれ 猿も小猿を ほしげ也」
「安政二丙辰年(1855)名古屋の俳人可大が来遊中、山麓の中桐在水、大橋小朔、三好霞章ら相はかり蕉翁の名句「初しぐれ 猿も小猿を ほしげ也」を可大に書きしめ山上に碑す。四望頂に存するものはなり。」とこの寒霞溪の景観を維持する団体神懸山保勝会発行の「神懸山誌」に記されています。



寒霞溪ロープウェイ
寒霞溪のよさは山頂での展望台、遊歩道を散策、眺望もよいが、ロープウェイ(片道5分)による深谷をスリルと感動の空中散歩はおすすめコース。駐車場が完備され、直営のレストランお食事処「楓」、島の名産品を豊富に取り揃えた売店など島内随一の観光施設。快適パブリックトイレ(レンガ色の円形建物)は大人気。

ロープウェイ
こうらん駅ー寒霞溪山頂駅
定員40名 定期便12分毎
多客時6分毎 年中無休
(AM8:00~PM5:00)
☎(0879)82-2171

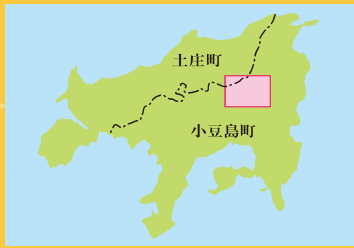
問い合わせ先: 小豆島町商観光課
TEL:0879-82-7007 FAX:0879-82-7017
Eメール:olive-shoko@town.shodoshima.lg.jp

星ヶ城跡

小豆島の最高峰(星ヶ城山)

小豆島最高峰である星ヶ城山は、東峰(816m)と西峰(805m)が約400m隔てて並んでいます。

星ヶ城山には南北朝時代に、備前の豪族佐々木信胤が南朝方に呼応し、防御の拠点とした山城の星ヶ城跡があり西峰が本城、東峰が詰の城跡となっています。



檜の小道



西峰からの展望



星ヶ城山

県指定史跡 星ヶ城跡



西峰阿豆枳神社

星ヶ城西峰

A 拡大図



西峰

本城の西峰には一の木戸、空壕、土壇、曲輪、居館跡、鍛冶場跡、土塁などの遺構があります。

① 鍛冶場跡

城を築くために必要な金具や武器を製造するために築いた鍛冶場跡で、多数の鉄滓が散乱していました。

② 下の空壕

外敵から身を隠し行動するための防御ほり、長さ10.8m幅4m深さ1.5mを計ることができます。

③ 居館跡

東西26m南北10mの平坦地で排水を考へて北方がゆるい下り勾配になっており、東峰の居館跡との見通しがよい位置にあります。

④ 水の手曲輪

山頂部から北側の山腹の降雨を集めて貯水する施設で、南より安山岩を敷き詰めた水汲み道が構築されています。

⑤ 土壇

東西27m南北20m程の平坦地で、空壕の掘削によって生じた残土を盛り上げて造成しています。

⑥ 外空壕

一の木戸から攻め寄せる軍勢を食い止めるための壕で、深さは約3.5m幅19mを計ることができます。

⑦⑦ 阿豆枳神社

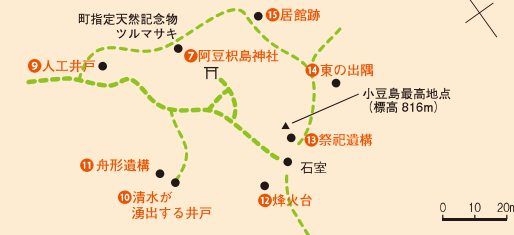
島の最高峰星ヶ城山の西峰に、島の祖神として大野手比売をまつる阿豆枳島神社が、東峰には五穀豊穡の神、豊受大御神が奉祀されています。日本の最初の書物「古事記」に伊邪那岐(いざなぎ)・伊邪那美(いざなみ)の二神が日本の大八州(おおやしま)について十番目に「小豆島(あづきしま)」を国生みし別名を「大野手比売(おおねでひめ)」

⑧ 星ヶ城神社

佐々木飽浦三郎左衛門尉信胤を祀っています。

星ヶ城東峰

B 拡大図



東峰

東峰の詰の城にも天然の湧泉や人工井戸、土塁、居館跡、石塁、祭祀跡、舟形遺構など多くの遺構があります。

⑨ 人工井戸

深さ5.5mほぼ2.5m平方の広さがあり、雨水などを貯水して緊急の場合にそなえたものと考えられます。

⑩ 井戸

真夏でも水が涸れたことがない自然湧水を利用した井戸です。

⑪ 舟形遺構

長さ6m幅3mの舟形に板状の石が散乱しており、石塁を築くための石の採取場であったと推定されます。

⑫ 烽火台

東西3.6m、南北5.1mの凹地、緊急時に集落があった、草壁、安田方面との連絡に利用したものと思われる。

⑬ 祭祀遺構

発掘調査によって、土師器の細片が多数出土しました。城が築かれる以前の古い祭祀の遺構と考えられています。

⑭ 東の出隅

山頂部をめぐる石塁東方の角の部分で、石塁強化するための角石積みです。

⑮ 居館跡

西峰の居館跡がよく見渡せる場所ので何棟かの建物が建てられていたものと推定されます。



佐々木 信胤(ささき のぶたね)

佐々木信胤はもともと、北朝方の大将である細川定禪に応じて京都攻めに加わった勇将ですが、足利幕府を開き初代将軍となった足利尊氏の有力な参謀の愛人と共に失踪し、南朝方へ転じました。信胤が小豆島に来島した時期については、一般的に1339年に拠島したと考えられています。その8年後の1347年に阿波、淡路、讃岐及び備前から集められた北朝軍の大軍勢に攻められ、丸1カ月間の合戦の末、敗れて降伏しました。